

第2回 市民ワークショップ<つるおか未来カフェ>（まとめ）

R6.10.22 朝暘第四小学校

市民ワークショップの目的

令和6年3月に策定した総合計画後期基本計画を市民へ普及・啓発を図るとともに、市民との協働により推進し、今後のまちづくりや一つひとつの取組に市民の意見を反映するため、市民ワークショップを開催したもの

今回は次代を担う小学生の意見やアイデア等を聞くために、朝暘第四小学校の総合学習で6年生の生徒を対象に実施

第2回 開催概要

日 時：令和6年10月22日（火）9時20分から10時40分

場 所：鶴岡市立朝暘第四小学校

参加者：鶴岡市立朝暘第四小学校の6年生 第1部 約80名参加、第2部 約40名参加

ファシリテーター：若者・子育て世代応援推進室、環境課、観光物産課、食文化創造都市推進課の職員

内 容：2部構成とし、第1部では鶴岡市の生い立ちや市が行っている重要施策などの説明を行い、第2部では4グループに分かれ、総合計画の5つの加速化アクションなどをテーマにしグループワークを行い、これからのまちづくりに何が必要かアイデアを出し合う

その他：ファシリテーターは、東北公益文科大学の「地域共創コーディネーター養成講座」を修了した市職員も配置



テーマ：「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」**【教育】**

- いじめがなく、優しい先生が多い学校にする
- 子どもの学ぶ場所を増やすなど学習環境を充実する

【商業】

- ショッピングを楽しめる場所を増やす
- 遊園地などの親子で遊ぶ、楽しめる場所を増やす

【観光・情報発信】

- ホテルを増やしたり、観光スポットを増やすなど、観光客にも楽しんでもらえる街にする
- テレビで有名人から鶴岡魅力をPRしてもらう

【暮らし・交通】

- マンションなど住む場所を増やす
- 仕事や病院を増やし、安心して暮らせる街にする
- 新幹線など便利な交通手段を増やす

【賑わい】

- 祭りを増やしたり、もっと商店街の賑わいをつくる。イルミネーションなどを使って街を明るくする

テーマ：「食文化創造都市の推進」**【給食】**

- 鶴岡の食材をもっと給食で使用する
- 郷土食の給食メニューを増やす

【情報発信】

- 鶴岡の食文化をTikTokやインスタなどSNSでもっと発信して、いろいろな人に知ってもらう

【農業体験】

- 保育園や小中学校でも農業体験できる機会を増やす

【宿泊施設での利用】

- 宿泊施設などでもっと鶴岡の食材を利用したり、食文化メニューを夕食で出してもらう

テーマ：「SDGs 未来都市の実現」**【環境・自然】**

- 太陽光発電を増やしたり、廃油を利用した資源リサイクルなどを推進する
- きれいな海や森林資源など自然環境を大切にする
- 都市と自然の両立したまちづくりを進める
- 人が訪れる街にするため、砂浜や海をきれいにするなど地域の資源を大切にする

【観光・商業・交通】

- 観光客を増やすため、宿泊施設を増やしたり、食文化など文化を体験できる場所増やす
- 住みやすいまちにするためにショッピングセンターや専門店など大人も子供も楽しめる場所を増やす
- 働く場所を増やしたり商店街のにぎわいづくりを行い、人口を増やす
- 庄内空港を電車などの交通機関を発展させ人口を増やす

【多文化共生】

- 空き家をリフォームするなどして、外国の文化を学べる場所や外国人も含めた人が交流できる場所を作る

テーマ：「産業振興と人材育成」**【観光・交通】**

- 訪れる人を増やすため、お祭りやイベントを増やす
- 外国人にも対応できる観光案内所を増やす
- 羽越新幹線や鶴岡-山形間の電車、2車線的高速道路、出羽三山に行くための移動手段など交通機関を発展させる

【商業施設】

- 親子で遊べるテーマパークやショッピングセンターを作る
- 親子で楽しめるスポーツ施設を作る

【遊び場】

- 公園にアスレチックなど作り、充実させて大人も子供も遊べるようにする
- 無料で遊べるこども施設を作る

【意見のまとめ】

- ✓ 親も子も楽しめる場所づくりや街の賑わいづくりを進めるとともに、交通機関を充実させ、人との交流を活発にする取組が重要
- ✓ 教育環境や自然を大切にする取り組みを進めるとともに、食文化や祭りなど地域の文化に親しみ、安心して暮らせるまちづくりが重要